

灯



バンクーバー五輪も終わり、結果については悲喜こもごもである。しかし、オリンピックに出る、ということは国を代表するということであり、恐らく全選手がその自覚は持っているだろう。北京五輪で活躍したバドミントン

の末綱選手も母校での報告会では見事な立ち居振る舞いで、大きく成長した姿をみせてくれた。



草野 義輔

ことがことを大きくした。一番お粗末だったのは彼を指導するコーチ陣だと私は思う。

よく服装の乱れを個性だというが、個性的な着こなしと単なるだらしなさは根本的に異なる。今回の件もそのあたりの考え違いが原因だろう。いわゆるドレスコードは単に基準というより、その場に対応した服装、という

ことを示唆してくれていると思う。葬式に金色のネクタイをしてくる人はまずいない。何がノーマルで何がアブノーマルかは良識と常識が備わっていないと判断を誤る。

今大会当初、スノーボード国母

選手の服装が大問題となり、出場辞退まで取りざたされる騒ぎとな

った。国内においても賛否両論あ

ったと聞かすが、一番問題だったのは「反省してまゝす」という記者

会見だった。反省するならきちん

とこの事件を糧に彼の大成を願うとともに、日ごろ生徒の服装指導で頭を悩ます現場を持つ身として自戒しなければ、と思った。

(昭和学園高校理事長・日田市)